

エルシーブイ FM 第 113 回放送番組審議会

1. 日時 2026 年 1 月 28 日 (水) 13 時 30 分から 14 時 30 分

2. 場所 諏訪市四賀 エルシーブイ株式会社 本社

3. 出席者 委員定数 6 名

出席委員 5 名 佐久 秀幸 委員長
宮坂 ちとせ 副委員
竹花 顕宏 委員
岩波 尚宏 委員
小池 征弥 委員

欠席委員 小平 茂徳 委員

放送事業者側 7 名

常木 真次 代表取締役社長
武居 賢次郎 専務取締役
堀川 久志 放送制作部長
小池 嘉則 放送制作部放送コミュニケーション課長
小池 利幸 放送制作部報道課長
吉田 和晃 放送制作部コンテンツ課長
青木 敬資 放送制作部放送コミュニケーション課

4. 議事次第

- ・自主制作番組「こちら消防団情報局スペシャル 2025-26」について審議

5. 議事の概要

【審査番組】

全国的に減少傾向にある消防団員の新規加入促進の一助となる事を目指す番組。消防団に興味を持ってもらうきっかけとして、2025 年 11 月 29 日 (土) にマリオローヤル会館で開かれる「令和 7 年度消防団員研修会」を取材し、当日の様相を番組内で紹介する。研修会で活動発表をする消防団員へのインタビューも実施し、消防団活動の魅力や活動を通してのやりがいなどについても語ってもらい、入団の後押しとする。

また、年末年始は特有の慌ただしさや火気の使用頻度の高まりなどから、防火・防災に対する注意力が散漫になりがちでもある。番組内で、諏訪広域消防本部 予防課 予防係の方へのインタビューをお届けし、リスナー・住民の火災予防意識の高揚も図る。

「こちら消防団情報局スペシャル 2025-26」に関する主な意見としては

- ・そもそも「消防団員」がどのような人達なのかわからない。どのような背景を持つ方達が、どういった活動をしているのか、はじめに「消防団員」についての説明が欲しかった。
- ・若い女性が「泥だらけになりながら活動をしている」という話や、「地元を守りたい」という想いを語ってくれていたり、元気に楽しそうに消防団の取り組みを紹介してくれているのを聴いて、本当にたくましく、カッコ良く感じた。同時に、明るい未来を感じられた。
- ・（同じ女性として）長い間消防団活動に携わる中で、出産や子育てなどのライフイベントもあったのではないかと推察する。そのような中、覚悟を決めて入団し、団員としての活動を続けている事は、本当に凄いと思う。
- ・女性の活躍がとても頼もしく感じた。（男性である自分も）しっかりしなければという前向きな気持ちになる事ができた。
- ・この番組のように、消防団員など陰で頑張ってくれている人達について発信していく事は意義がある。
- ・警察やJRなど、消防団員と同じように、かつて「男性社会」であった分野の女性の活躍も取り上げてみたらどうか。頑張る女性たちの声は、世の中を明るく、元気にしてくれるので、多くの人が興味深く聴いてくれるのではないか。
- ・地域防災の要である消防団にスポットを当てた番組の企画、放送は有難く感じる。
- ・女性の社会進出や参画は消防団に限らず、重要な社会課題。特別番組という形で、実際に活躍をしている女性たちの姿を伝える事はとても重要である。
- ・多くの女性消防団員が出演する構成は、柔らかい印象を受けた。出演者一人一人の声のトーンや話し方が聴き取りやすく、わかりやすい語り口だったので、心地よく聴く事ができた。
- ・通常の「こちら消防団情報局」も聴いているが、女性消防団員同士のやり取りが、自由にお喋りをしている感じがして、台本の存在を感じさせない。感心しながら聴いている。
- ・長野県としても男女共同参画を進めていて、職員が様々な研修などを受けている。そういった中「（女性消防団員が増えた事で）女性消防団員が着替えをする場所を屯所内に設ける話が進んでいる。」などの具体的な事例が紹介され、意義深かった。
- ・（自身も現役の消防団員のため、一般の人達に知って頂くのが難しいと実感している）普段の

消防団活動などが、広く、よく伝わる内容だった。

- ・新規団員の加入促進の為には「カッコ良い」「遣り甲斐がある」事を伝える事も大切だが、番組の中で触れられていた「楽しい」「仲間」というキーワードが大事になるのではないかと。そういった意味でも、女性団員同士が仲良く活動している事が伝わって良かった。実際に新規加入促進の一助となる番組になったのではないかと。
- ・「楽しさ」だけではなく、訓練や日々の巡回などの活動、防火・防災への呼び掛けも番組内に盛り込まれており、良い構成であった。
- ・（編集も可能な収録番組なので）より深い、個人的な活動に対する想いなどが語られても良いのではないかと。
- ・餅の誤嚥の話にはハッとさせられた。よい注意喚起であった。
- ・消防団員が行ったワークショップに80人もの方が参加したという話には驚いた。地域の方が消防団を支えている事がわかる良いエピソードであった。
- ・新聞記者も「男性社会」であり、支社にはお手洗いが一つしかなく、女性記者が困るという話を聞いた事がある。今回の番組を通して、消防団の世界でも同様の問題があるのだと知る事が出来た。全ての屯所に男女別のトイレなどが整備されると良い。
- ・原村の女性消防団員が増えた事で、女性団員のみでポンプ操法に取り組んだり、救命講習の講師を務めたり、「出来る事が増えた」という話を聴いて、長い消防団の歴史が変わってきた事を実感した。
- ・消防団員や消防署員から、防火、防犯の話を聴ける希少な機会となる番組であった。

以上、各委員から多数のご意見を頂きました。